



子どもたちの育ちを見つめて



先日、地域の方の畑へさつま芋掘りに出かけました。芋畑を目指し急な斜面を登って行くと、畑では地域のおじちゃんたちが、子どもたちが掘りやすいように、芋のつるを切って待っていてくれました。

子どもたちは、土の上に少しだけ残っているつるを引っ張ったり、手でかき分け掘っていき、さつま芋が見えてくると歓声を上げたり、芋のつるに何個も芋が連なって出てくるのを見て、その大きさや様ざまな形に驚いたり喜んだり、夢中になって楽しんでいました。また、さつま芋のつるを持ち帰り、あそびやクッキング保育で更なる楽しさを味わいました。子どもたちにとって、この体験が植物が成長することや生命の存在に気づく良い体験になったと思われます。

10月15日から18日の4日間の日程で「保育園へ行ってみよう week！」を行いました。子どもたちがどんなことに夢中になっているのかなど、子どもたちの姿を近くで見させていただく中で、お子さんの成長を感じていただけたと思います。2歳児クラスの部屋で、遊ぶ様子を見ていた保護者の方が、子どもたちが一斉に同じことをして遊ぶのではなく、いろいろなあそびの中から興味のあるものを自分で選んで、伸び伸びと遊んでいる姿を見て驚かされていました。乳幼児期、特に2歳までは、危険なことではなければ、その子のやりたいことや言いたいことを大人が察して十分にやらせてあげることが、3歳以降の自分のことは自分で考え・決める力である「主体性」につながると言われています。

ご家庭でもお子さんが自分のことを自分で決められるように、頭ごなしに指示したり叱ったりせず、お子さんの思いをしっかり聞き、考えていることを「そうだね」と受け入れることが大切です。そして、自分で考え決めたことをやろうとしていたら、時間がかかっても最後まで見届け、自分で決めたことが実現できた時には、しっかり誉め、失敗しても「今度はこうしてみようか」と話してあげていると、少しずつ自己肯定感が広がり、自分のことは自分で考え・決められる主体性が身についていきます。

今月9日(土)には「こやうらっこ わくわく広場」が開催されます。お子さんだけでなく、多くの異年齢の子どもたちの作品をながめていると、今お子さんが夢中になっていることや自分で考え試行錯誤しながら取り組んでいること、どんなことに興味を持っているのかがわかり、お子さんとの会話が豊かになることでしょう。「何かができるようになった」ということもうれしい成長ですが、お子さんが興味を持っていることや粘り強く挑戦していることを応援したり、うまくいかないことがあったら最後まであきらめないように励ましてあげることが、お子さんの主体性を育むために大切なことだと思います。

「こやうらっこ わくわく広場」では、お子さんが自分たちで作った作品を、「ここはこうやって作ったよ、こうやって遊ぶんだよ」など保護者の方にも説明してくれることでしょう。当日は、一緒に作ったり遊んだりする中で楽しさを共有したり、子どもたちの目線になって楽しんでいただける思い出に残る一日となれば幸いです。

園長

地域の方の畑で芋ほり  
土の中のお芋とカクラベ



さつま芋  
アイスで～す  
ペロリ

さつま芋の花  
じっくり見たことなかったけど・・・



サツマイモのつるの皮むきをして  
「きんぴら」にさせていただきました  
子どもたちの感想は・・・  
「おいし～い」でしたよ

保育園に行ってみよう Week！4日間ありがとうございました  
子どもたちの保育園での様子はいかがでしたか？いつも通り  
とはいかない子どももいましたが、おうちの人、友だちのお母  
さんにみってもらったことは嬉しかったようです  
「見てもらう」「認めてもらう」ことが子どもたちの次へ  
向かう力となります



0歳児クラス・・・給食を食べ  
る様子を見に来てくだ  
さいました



子どもたちが大根に変身～！  
抜かれないぞ～

Week 最終日・・・10月生まれさんの  
お誕生日会の後、手作り神輿を担いだり、  
ひっぱったりして練り歩きを楽しみました



はるさめあそび  
お料理!?作りに夢中です

